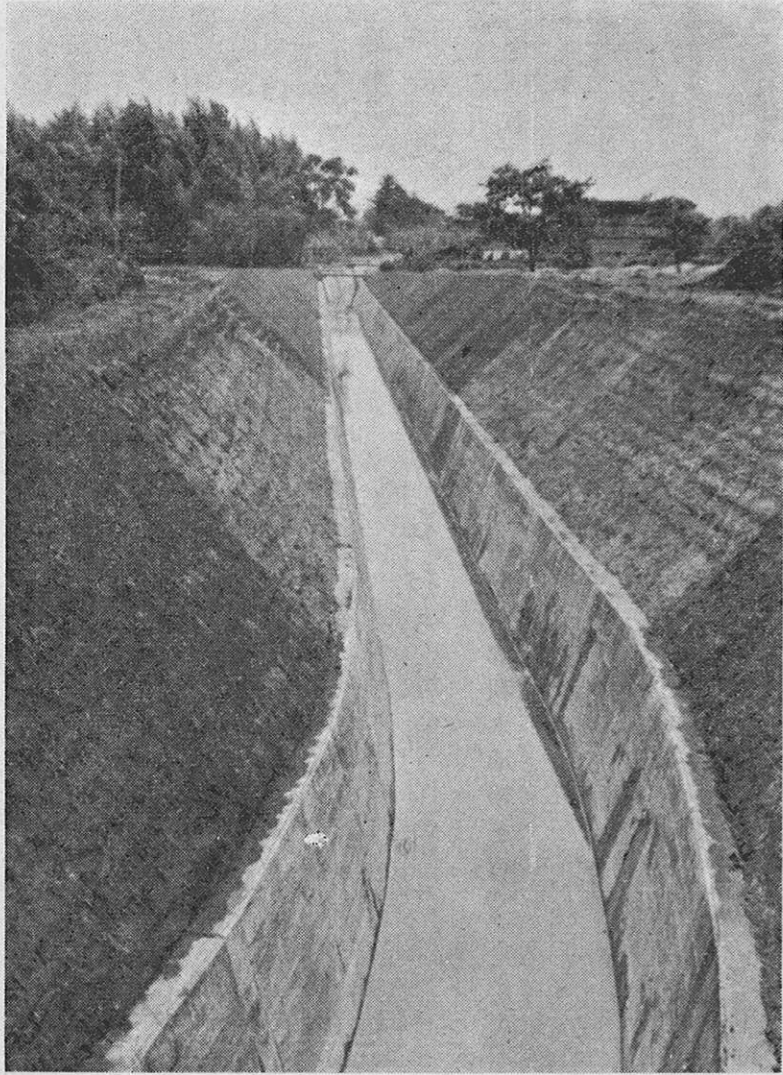


# 土地改良の断面

—その概況と現地の姿をみる—

☆☆☆

(写真はすでに一部新設された球磨南部の用水路)



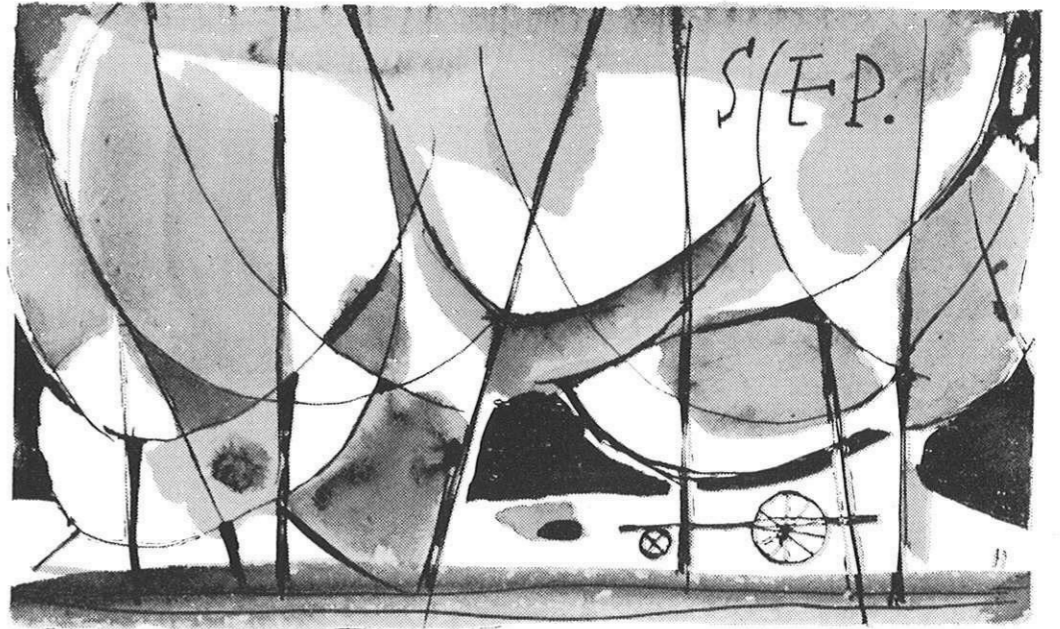
- ▽ 県政の焦点として大きくクローズアップされてきた土地改良事業――。
- ▽ だが、ひと口について土地改良とは何か、一寸戸まどいがあるようである。普通知られているものは、畑地かんがいや干拓などであるが、他にも多くの地味な事業があつて、その範囲もすこぶる広い。
- ▽ ともあれ、土地と水の条件を改善することによつて生産の基盤は増強され、さらに土地改良に密着した農業改良技術の導入によりはじめて農業経営の新しい前進もあるわけである。
- ▽ こゝに紹介しようとするものは、いわばそういった過程にある現在の土地改良事業の一つの断面である。

前号で、県の土地改良事業の問題点と今後の方向について紹介したので、本号では、現在行われている事業の概況からまずのぞいてみることにしよう。

土地改良事業は、その性格からいって大きく四つに分けられる。つまり干拓、開田、開畑による耕地の造成事業、改良的な事業、防災的な事業、それに災害復旧事業である。そこでこれらのものを、現在行われている県下の工事と照らし合わせながら、簡単にこれからのべてみよう。

### 耕地造成事業とは

積極的に農地をつくつて、農村の二、三男の入植をはかり、増反者の経営面積を拡めるために行う開墾、干拓である。干拓事業では、全額国費による県営で着工している八代港干拓、芦北干拓、河内干拓など。その他、国営の横島干拓、(玉名郡)不知火干拓(下益城郡)がある。又一方、小規模干拓で補助を受け県



### 九月の言葉

秋来ぬと目にさや豆のふとり哉 大江丸

夕風の音にぞおどろかれぬる夕という藤原敏行の歌の文句とりだが、これはさや豆のふくらみに秋を鋭く感じとつている。黍の葉ずれ、蜻蛉の羽音、目にふれ耳に入るものすべてに、初秋の新鮮な感触を受けとることは九月のよろこびであろう。

灼熱の夏にいどんで潑刺と鍛え、営々と働いてきた人々にとつての九月はまた、充実の秋に向かつて身がまえるスタートラインともいえる。

白い風の道をつくつてそよぎ渡る青田には、もう咲き初めた稲の花が香ばしく、用水池の布袋草は淡むらさきのあえかな色で、なお朝夕を咲きつゞく。

無精ひげのしわ深い顔に微笑をうかべて、今年の出来秋を語り合う老農たち、泥ンこになつて井手の鮒を追いまわす村童の群、五年つゞきの豊年の予想は、村々の至るところにたのしいざわめきを呼びおこす。

だが、収穫までにはもう一と丁場ある。

台風期もこれからだし残暑もきびしい。さア元気を出して頑張ろう。

かくれ咲く一つの蓮や稲の花

秋桜子